

河 地域をつなぐ運動会 合小学校ふるさと大運動会

6月2日(土) 河合小学校

河合小学校で「ふるさと大運動会」が開かれ、同校の全校児童43人と大勢の地域住民が参加しました。

この運動会は、地域全体で学校行事を盛り上げようと毎年行われており、今年は7回目を迎えました。

この日は、紅白に分かれての綱引きやリレーなどの競技のほか、河合消防団による操法実演や応援合戦などが行われました。

また、地域住民も競技に参加し、リレーや玉入れなどを楽しみました。



綱引きで勝利し喜ぶ児童

OPEN! 飛騨神で高校の魅力を紹介

6月2日(土) 飛騨神岡高校

飛騨神岡高校では、中学生や地域の方々にもっと知ってもらおうと「OPEN! 飛騨神」を行いました。

この日は、各クラスの授業参観や学校紹介のプレゼンが行われ、飛騨神岡高校の1年間について、生徒会長が学校の行事内容や地域とのつながりを大切にしていることなど飛騨神の良さを説明しました。その後、学校の特徴の一つである3つの系列についての発表があり、飛騨神を選んだ理由、入学した経緯、少人数授業の良さや学校生活、部活動の楽しさなどを説明しました。

また、部活動の公開として、ロボット部によるロボットバトルのデモや茶道部による呈茶会、吹奏楽部によるミニコンサートやさまざまな部活動が公開されました。



生徒による学校紹介

公益社団法人日本公衆電話会より寄贈 こども手帳が寄贈されました

6月7日(木) 市長室

公益社団法人日本公衆電話会は7日、「こども手帳」を市に寄贈しました。

この手帳は小学校の児童向けに作成されたもので、自分の身体や命を自分で守る方法やエコの大切さなど、子どもたちの将来の役立つ情報が掲載されています。この手帳は市内の小学校6校の4年生児童全員に配られます。同会による贈呈は平成26年から継続しており、今年で5年目です。

この日は、同会東海統括支部の前田和也事務局長とNTT西日本の白川一公高山支店長が訪れ、湯之下副市長と沖畑教育長に手帳を手渡しました。



こども手帳を手にする湯之下副市長と沖畑教育長

古 みんなで楽しくお米作り 川西小学校で田植え体験

6月5日(火) 古川町谷地内

古川町谷地内の田んぼで古川西小学校5年生51人が田植えを行いました。この田植えは、今年の11月に飛騨で開催される「第20回米・食味分析鑑定コンクール」に小学校部門として出品し、児童らに農業への関心と大切さを知ってもらい、金賞受賞を目指します。

この日は、昨年の食味分析鑑定コンクールで金賞を受賞した(株)みつわ農園の永田政和さんが児童らに田植え作業について説明し、児童らは592平方メートルの田んぼにコシヒカリの苗を数本ずつ丁寧に植えていきました。

永田さんは「秋に稲刈りなどがあるので、一緒に作業できたらいいと思っています。今後も一緒に作業をして金賞を取りましょう」と話していました。



田植えをした児童ら

ス 東京大学宇宙線研究所 スーパーカミオカンデ改修工事始まる

6月10日（日） 東京大学宇宙線研究所

東京大学宇宙線研究所で6月10日、神岡町の神岡鉱山地下にあるニュートリノ観測装置「スーパーカミオカンデ」のタンク入口が12年ぶりに開けられ、大規模改修工事が始まりました。

この改修工事は、宇宙の始めのころから起きてきた超新星爆発に伴うニュートリノの観測精度を上げるため、タンク内の純水にレアアースの一種「ガドリニウム」を添加するための準備として、タンク内の水もれの補強や配管工事、光センサーの交換を行うことが目的。今後はタンク内の純水がすべて抜かれ補修工事が行われた後、12月中旬に観測を再開する予定です。



12年ぶりに開けられたスーパーカミオカンデのタンク入口

み 重症心身障がいの方へ在宅支援 みらい飛騨サテライトがオープンしました

6月10日（日） ハートピア古川

みらい飛騨サテライトがハートピア古川内にオープンし、開所式が行われました。

重症心身障がい在宅支援センター「みらい」は、重症心身障がい児者の在宅生活相談や医療・福祉施設などの相談、家族交流会などのネットワークづくりなどを行っており、今回飛騨圏域における重症心身障がい児者とその家族に対する相談支援体制の強化を目的に、飛騨サテライトを新たに開所しました。

式では、テープカットや事業の概要説明が行われ、式の後は、障がい児者家族と支援関係者との交流会や食事の形態、姿勢を学ぶ勉強会が行われました。



テープカットを行う関係者

坂 英語を好きになるきっかけへ 坂本さんが教材を寄付

6月11日（月） 市長室

神岡町で移動スーパーを経営している坂本佳祐さん、坂本良威さんが市長室を訪れ、英語の教材を寄贈していただきました。坂本さんは、飛騨市の子供たちに多くの機会に英語に触れてもらいたいと、市内の小中学校に英語教材の寄贈を行っており今年で4年目になりました。

この日は、移動スーパーの売上の約1%で購入した「英語イラストカード」、「英語版世界地図」、「四線黒板」、「英語ビクチャーカード」などの教材が都竹市長に手渡されました。

坂本さんは「子どもたちに英語を好きになってもらい、世界に羽ばたいてほしい。そして、将来地元に戻ってきて貢献してほしい」と話してくれました。



教材を手にする坂本さん（右）

都 高原川が都市・地域再生等利用区域に指定 市・地域再生等利用区域指定伝達式

6月11日（月） 市役所

高原川が県内で初めて都市・地域再生等利用区域に指定され、その指定通知の伝達式が、市役所で行われました。

この指定は、県が市からの要望を受け行われたもので、高原川の一部区間（藤波橋から神岡消防署付近の延長約1.1kmの区間）において河川空間の民間開放を行い、さまざまな出店やイベント開催が可能となります。

式では、県土整備部河川課の井上清敬課長、古川土木事務所の小野弘康所長、都竹市長が出席し、井上課長から都竹市長へ登録通知証の伝達が行われました。



登録通知証を手にする井上清敬課長と都竹市長



都 市長が市の取り組みを分かりやすく解説 都竹市長の市政ゼミナールが行われました

6月22日（金） 神岡町公民館

都竹市長が飛騨市の取り組みについて分かりやすく解説する「都竹市長の市政ゼミナール」が神岡町公民館で開かれ、市民ら約35人が参加しました。

今回のテーマは「平成30年度事業・予算とこれまでの取り組み」で、都竹市長は、平成28年度からの飛騨市の取り組み事項や平成30年度当初予算として、飛騨市の財政状況を財布に例えて分かりやすく解説。

今年度、重点的に進めていく施策については、昨年度からの事業と併せながら、今年度進めていく取組について分かりやすく丁寧に解説しました。



市民らに解説する都竹市長

吉 課外活動で議会を見学 吉城高校生が議会の一般質問を傍聴しました

6月21日（木） 議場

吉城高校の生徒9名が飛騨市議会の一般質問を傍聴しました。

この日、傍聴したのは同校の1年生7名、2年生1名、3年生1名の全9名。9名は初めての議会や議場の雰囲気緊張していましたが、質問や答弁の内容をメモするなどしながら、真剣に議会を傍聴しました。

生徒は「初めて議会を見ることができ、良い経験になりました。今後も政治について学んでみたいと思います。」と話していました。



真剣に議会を傍聴する生徒ら

種 飛騨市ふるさと種蔵村が開村 蔵の棚田と板倉の原風景を守る

6月30日（土） 宮川町種蔵 ふるさと種蔵村役場

宮川町種蔵で「飛騨市ふるさと種蔵村」の開村式が開かれ、村民登録申込者や草刈り作業のボランティアら約30人が参加しました。

この開村式は、種蔵にある「棚田と板倉の原風景」を後世に残そうと、景観資源の保全活動に支援協力していただける方を「ふるさと種蔵住民」として村民登録し、集落環境の保全活動を支援していただくものです。

開村式では、都竹市長からのふるさと種蔵村開村宣言の後、種蔵区長の藤白昭一さんへ村長の任命が行われ、その後、藤白村長から副村長、教育長、環境課長、名誉村民の方に委嘱状が交付されました。また、種蔵村民となられた方に藤白村長から河合町の山中和紙で制作された手づくりの住民票が公布されました。



看板を掲げる藤白村長と都竹市長

ば 色とりどりのバラが来場者を魅了 ら園まつりが開催

6月24日（日） 河合町

6月9日にオープンした河合町の香愛ローズガーデンで「ばら園まつり」が行われました。

会場では、丹精こめて育てられたさまざまな種類のバラが見頃を迎え、訪れた方を楽しませました。また、バザーやミニSL体験、魚のつかみ取り、地元バンド演奏など、盛りだくさんのイベントが行われ、子どもからお年寄りまで大勢の方でにぎわいました。

ローズガーデンでは、1,300種約5,000株のバラが栽培され、6月中旬から10月頃まで花を咲かせます。園内には、お土産コーナーもあり、バラを使ったオリジナルグッズなどが販売されています。



色とりどりのバラを楽しむ来場者